

市の考えを問う 一般質問

12月14日・15日・16日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



Q 鶴ヶ島市政の実態について

長谷川 清 議員



A 元気な鶴ヶ島であり続けるための基盤づくりを進める

質問一 学校トイレの洋式化の県内順位と今後の方針は。

二 公園のトイレ美化の実態は。

三 下水道料金の値上げと下水道組合負担金の関係は。

四 競争入札の実態と健全性の確保については。

五 少子高齢化・人口減少対策のために実施している施策は。

答弁一（教育長） 県内63自治体中61位であり、本定例会に提出し

た補正予算において、来年度以降に小学校8校のトイレ改修工事を行うための設計費を計上した。

二（市長） 公園のトイレ清掃は、鶴ヶ島市シルバー人材センターに委託していたが、現在は市の技能労務職員が行っている。

三 予定されている下水道使用料の引上げの平均改定率は、15・7割とのことである。汚水処理に係る経費は、下水道使用料で賄うべきものと考えている。

四 関係法令に基づき、透明性が確保され、公正な競争が促進されることなどを基本に執行している。

五 若い世代の転入・定住策としての脚折雨乞やサフランなどを生かした地域ブランド化、ウェルカムガイドブックや市のPR動画等のほか、将来への備えとしての空き家対策、つるバス・つるワゴンの充実などに取り組んでいる。

Q 多世代近居循環型のまちづくりについて

内野 嘉広 議員



A まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、取組を進める

質問一 人口減少社会との向き合い方について。

二 空き家の有効活用及び住宅政策について。

三 多世代近居（インビジブル・ファミリー）の促進について。

答弁一（市長） 高齢化が進行するため、生産年齢人口の割合を高め、偏った人口構成を是正することが重要である。若い世代の転入・定住を促進しながら、子育てをしたくなるような魅力あるまちづくりを展開していく。

二 空き家等の利活用方策の検討のため、庁内に空家等対策連絡会議を設置し、様々な活用の可能性の洗い出しをしている。空き家バンクについては、更なる啓発に努める。国の住宅施策の動向を注視しつつ、情報提供や相談体制の充実を図り、安心して暮らせる居住環境の創出に努める。

三 多世代近居は、子育てや高齢化等の問題を解決し得る新しい家族の形として注目されており、定住人口の増加や地域コミュニティの充実にも効果がある。鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、都市再生機構等と連携して多世代近居、空き家の有効活用などの取組を進めていく。

◎その他の質問 農業大学校跡地及び跡地周辺の今後について



洋式化されたトイレ（イメージ）